HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	盗まれたブーツと Adventures of Huckleberry Finn そして Tom Sawyer, Detective
Author(s)	竹内, 康浩
Citation	北海道大学文学研究科紀要, 141, 81(左)-1009(左)
Issue Date	2013-11-27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53610
Type	departmental bulletin paper
File Information	03_TAKEUCHI.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学研究科紀要 141 (2013)

盗まれたブーツと *Adventures of Huckleberry Finn* そして *Tom Sawyer, Detective*

竹 内 康 浩

Literary Imagination 誌の拙論“Twain's Trauma and the Unresolved Murder of Huckleberry Finn's Father”は，アメリカの国民作家 Mark Twain が抱え持つ「父殺し」の欲望を中心的に議論している。その中で付随的に示されたのは，彼の代表作 *Adventures of Huckleberry Finn*（1885）における一つの未解決殺人事件の解明であった。その小説では，主人公 Huckleberry Finn の父親，Pap Finn（Pap は固有名詞ではないが，これまでの Twain 批評家たちの慣例に倣い，このように記す）が殺されているのだが，事件の真相は解明されていない。本稿では，事件解明に関する *Literary Imagination* 誌での仮説を振り返りつつ，そこでは中心的議論からの逸脱を避けるために十分なされたとは言い難い仮説の裏付けを，Twain 後期の作品 *Tom Sawyer, Detective*（1896）を参照しながら行いたい。そうすることで，Twain が父の死に対して無意識に行っている抑圧が ── それ故，Twain 自身は父の死に関する自らの罪について言葉にすることが出来ないという事態が ── 逆説的に Twain 作品を生み出す源泉になり得ていることを示していきたい。

＊＊＊＊＊

まだ Huck と Jim が Jackson's Island に潜んでいた *Adventures of Huckleberry Finn* の序盤，川を流れてきた一軒家で裸の男の他殺体が発見される。だが，この出来事はそれ以後の物語の展開に直接利用されることはない。小説結末になって，その死体が Huck の父親 Pap のものであったことを，Jim が Huck に告げるだけである。こうして，誰が Pap を殺したのかという問題を解決せぬまま Twain はペンを置いた。だが，この言わば未解決殺人事

件に関して，Twain は犯人を特定するための手がかりや伏線を入念に書き込んでいたのだった。

Huck の執筆が開始された 1876 年，Twain が推理小説風の構想を持っていたことは，Franklin R. Rogers により古くから指摘されていた。Rogers はその根拠として，創作ノートに Pap が行方をくらましたことや Pap の死について記されていること（128），あるいは Jim が裁判にかけられることを示唆する記述から小説結末が法廷場面になると推定されること（130），さらに当時 Twain が“A Murder, a Mystery, and a Marriage”や *Simon Wheeler, Amateur Detective* などの探偵ものを執筆していたこと（132），などを挙げている。特に後者が *Huck* 中盤の Grangerford 家の挿話と多くの共通点を持つと指摘した上で（133–35），Rogers はこう述べている：

> [I]n its early stages *Huckleberry Finn* was to be a burlesque detective story. Apparently its denouement was to feature Jim's trial for Huck's murder, a crime never committed; Pap's murder as well as the mock murder were to be connected with the Grangerford-Shepherdson feud in a plot-complex similar to that of Simon Wheeler.... The fact that Tom is to be present at least during the final episode suggests that he was to play a role similar to that of Simon Wheeler.（135）

Twain が結末に関するノートで“boys”と記述していることを考慮すれば（130），最終的には Tom が登場して事件を解決するという筋立てを推測できると Rogers は結論しているわけである。

それから 50 余年，Rogers の指摘は批評的な発展を十分に見せていない。その一つの理由は，Rogers が推理小説としての筋立てをテキストからの具体的証拠と共に立証することがなかったためであろう[1]。最近では小説家の Jon Clinch が，Pap 殺害現場の詳細な描写に関して“What on earth ... did Twain mean by leaving those clues behind?”（293）と疑問を抱き，自らの小説 *Finn*（2007）において，事件を「解決」して見せはした。しかし Clinch は，そのために新たな人物や出来事を書き加えざるを得なかった[2]。そこで，*Literary*

Imagination の拙論では，テキスト内から事件の解決に必要な具体的伏線を見出し，最も重要な手がかりが Pap のブーツであった可能性を示すこととなった。

また，Rogers の議論には，Twain が推理小説の構想を断念した理由の考察が欠けていた。Rogers は単に“for some reason, possibly because it was not readily expandable”（135）と述べるにとどまっている。だが，Twain が Pap 殺害事件の解決を入念に準備していた可能性が明らかになると，その放棄は奇異に見えるのであり，事情は深く問われねばならなくなる。

なぜ Twain は，事件が見事な手際で解決される準備が整いかけたとき，ペンを止めてしまったのか。これまで，最初の執筆中断（1876–80 年頃）の原因は，16 章で筏が破壊されことや（DeVoto 62），15 章で発生した霧の中で Huck と Jim が南部の奴隷州へと侵入してしまったことだと理解されてきた（Blair 149，亀井 338，後藤 175）。あるいは最近では，Peter Schmidt が 16 章の所謂“raft episode”における Huck 像の崩壊（と Schmidt が考えるもの）を中断の理由としている（151）。しかし，1990 年に小説前半部分の手書き原稿が発見され，最初の中断箇所が 446 枚目，すなわち 18 章の半ばであることが判明したので（Fischer, “Facsimiles” 570），これらの説は中断理由の発生箇所と実際の中断箇所との齟齬を抱え込んでしまった。Rogers 自身も時代的制約のため，推理小説風構想の放棄と執筆中断の時期が一致している可能性を検討することはなかった。

結局，Twain が直面した困難の本質とは，南部侵入などの筋の上での問題ではなく，まして事件解決の準備不足でもなく，むしろ事件の中心に横たわっていた死体そのものの不可知性だったように思われる[3]。もちろん，Pap の裸の死体に対する Twain の複雑な思いは，自身の少年時の体験 ── 卓上に裸で横たわる実父の遺体が解剖されるのを見たこと ── に直接的には由来するものだったかもしれない[4]。件の拙論では，そのようなトラウマ的な伝記的事実を参照しながら Twain の創作上の困難を説明しておいた。しかし，ここではテキストの中から，Twain が自身とって解決や言語化が困難なもの（死体の謎）にいかに向き合い，そして最後の瞬間に身を翻し続けてきたか，その

姿を探り出していくことにしたい。Twain は，Pap であれ実父であれ，死体の謎に魅了され，同時にその不可知性やおぞましさに尻込みもした。そのような，決して到達出来ない死体の闇を巡る両義的な運動が，この小説の創造に関わる一つの重要な力だったように思われるのである。

＊＊＊＊＊

そもそも Clinch が創作の霊感を得たという Pap 殺害現場の品々とは，彼が挙げているもの ―“The walls, covered all over with words and pictures in charcoal. The men's and Women's clothing. The wooden leg. The two black masks made out of cloth”（293）― だけではない。Huck と Jim が現場から様々な物をカヌーへと運び入れたとき，Twain はいちいち全てを数え上げている。それは，一点の遺漏もない目録こそが，Twain にとって Pap 殺害事件を発展させていくために必要不可欠な伏線だったからだ。

> We got an old tin lantern, and a butcher-knife without any handle, and a bran-new Barlow knife worth two bits in any store, and a lot of tallow candles, and a tin candlestick, and a gourd, and a tin cup, and a ratty old bedquilt off the bed, and a reticule with needles and pins and beeswax and buttons and thread and all such truck in it, and a hatchet and some nails, and a fishline as thick as my little finger with some monstrous hooks on it, and a roll of buckskin, and a leather dog-collar, and a horseshoe, and some vials of medicine that didn't have no label on them; and just as we was leaving I found a tolerable good curry-comb, and Jim he found a ratty old fiddle-bow, and a wooden leg. The straps was broke off of it, but, barring that, it was a good enough leg, though it was too long for me and not long enough for Jim, and we couldn't find the other one, though we hunted all around.
>
> And so, take it all around, we made a good haul.（62）

しかし，Clinch と違って我々は，ここに含まれている何かが犯人解明の手がかりだとは考えない。注目すべきは，リスト自体の網羅性の方である。Twain

は Huck と Jim に義足を探させながら，部屋に見落としがないことを確認までさせている。

ここで Twain が企んだのは，いわば地と図の反転である。様々な品々は，「図」ではなく「地」なのだ。一点の遺漏もない目録によって，Twain は現場の「地」を丹念に塗りつぶした。それにより必然的に，一つの空白が「図」として浮かび上がることになる。このリストには，本来なら数え上げられなければならないものが，含まれていないからだ。Twain は，現場にある品々ではなく，むしろそこにあるはずなのに消えているものという「欠如」を，事件解決の鍵として使おうとしていたに違いない。

「欠如」が罪を暴く鍵になりうることは，*The Adventures of Tom Sawyer* (1876) でも示されている。悪童 Tom の罪を見逃さない弟 Sid は，欠如に注目する目を持っていた。あるとき Tom は Aunt Polly を嘘でだます。実際には密かに自分の目で見ていた出来事を，夢で見たこととして Polly に話したのである。信じ込む Polly の鈍さとは対照的に，Sid は眉につばをつけてつぶやく ── “Pretty thin—as long a dream as that, without any mistakes in it!” (97)。Tom が夢のことを語っているなら，全てが現実と一致するはずがない。Sid はそう考え，間違いの欠如を怪しんだのである。また Twain は，夜の徘徊から密かに帰還した Tom に Sid が気付く際にも，ただ Sid が Tom の悪行を見破ったとは書かない。Sid が「省略」に注目したと書き添えるのだ ── “Tom turned in without the added vexation of prayers, and Sid made mental note of the omission” (26)。

我々もまた，Pap 殺害現場で Twain が描写しなかった “omission” に注目したい。では，それは何か。こう問うたとき，Pap の死体が裸だったこと (“It’s a dead man. Yes, indeedy; naked, too” [61].) の重要性に思い至るだろう。言うまでもなく，Pap は現場の家にやって来たとき服を着ていたはずである。したがって，現場のどこかに Pap の服や靴がなければならない。確かにそこには “some men’s clothing” があったとされたが，もしそれが Pap のものならば，それをカヌーに積み込んだとき，Huck が気付かないはずがなかろう。Huck は最近まで Pap と暮らしていたし，Pap が他に着替えを持ち合

わせていたとは考えにくい。貧乏白人ではない Tom でさえ，普段着と日曜学校用の二着しかなかった時代である（*Tom* 27–28）。だから現場にあった衣服は，Pap の一張羅ではなかったはずである。

それ故，Twain の“omission”とは，Pap の服と靴ということになる。それらが事件現場に無いのは，推理小説を書くという Twain の意図がある程度真剣なものだったならば，単なる書き忘れではなく，誰かが持ち出したことを示唆しており，Twain はそれを後に暴露するつもりだったと考えられる。実際 Twain は，変装する犯罪者をしばしば描いた。*Pudd'nhead Wilson*（1894）で Tom Driscoll が殺人後に“girl's clothes”（100）を着たり，*Tom Sawyer* で殺人犯の Injun Joe が“sombrero”と“green goggles”（126）などで変装していたように，Pap 殺害犯も変装のために Pap の服を着込んで逃走した，という筋立てを Twain が構想していたと考えれば，服の不在には納得がいく。

すると，犯人を捜すには Pap の衣服と靴を身につけている者を見つければよい，という展開が可能になる。これが単なる偶然ではなく，Twain の仕掛けであると考えられるのは，これより早く，彼が Pap の靴の特徴をわざわざ書き込んでいたからでもある。Huck が奇妙な足跡を発見した朝のことだ。

> There was an inch of new snow on the ground, and I seen somebody's tracks.... There was a cross in the left boot-heel made with big nails, to keep off the devil.（19）

しかし，Twain はここで直ちに足跡の主が誰かを告げはしなかった。この後，Huck を Judge Thatcher の所へと走らせ，自分の財産全てを譲り渡そうとする姿を描く。その後で，Huck は Jim に告げることになる ── “I ... told［Jim］pap was here again, for I found his tracks in the snow”（20）。こうして Twain は足跡の意味を一旦宙づりにしてから開示した。謎めいたブーツの足跡が，履いている者の正体を告げる証拠として提示されていることは，Pap 殺人事件においてそのブーツが果たす役割の前触れとしてふさわしいものだろう。

Pap 殺害犯が，Pap の服を着込こみ，その靴も履いてしまったのだとした

ら，この変装は実に皮肉な結果を招くことになる。犯人は十字の付いた足跡を我知らずあちこちに残してしまうからだ。だとすれば Twain は，“fingerprint”ならぬ“footprint”を犯人特定の文字通り“crucial”な証拠として使うことが出来たはずである。ただ Huck も Jim も，死体が履いていたはずの靴が現場にないことには気付いていない。そこで Rogers の予想 ―“Tom is to be present at least during the final episode”（135）― を考慮すれば，Twain は Tom を探偵として登場させ，十字の足跡を頼りに，Pap のブーツを履いている人物を犯人として特定するつもりだったのであろう。

そこで，簡単に結末までの想定される筋をまとめれば次のようになる。まず，Rogers が言うように“Jim’s trial for Huck’s murder”（135）が開かれる。Huck 殺しを疑われた Jim を救うため，殺されたはずの Huck は人々の前に姿を現わす。こうして Jim の嫌疑は晴れるが，その頃までに Pap の死が発覚していたので，今度は Huck が父殺し犯として捕まる。村人たちには Huck に Pap 殺しの動機があるように見えたからだ。そもそも Pap は Huck が洞窟から掘り出した大金を我がものにしようと村に戻り，息子に近づいたのだった。だから，Huck は自分の金を守るために父親を殺したように見えてしまったのだ。こうして物語は，殺人事件の被害者のはずだった Huck が，一転して殺人事件の加害者として捕らえられるという劇的な展開を見せる。父殺しを犯したと疑われた Huck が受ける罰は吊し首だ。このとき Jim は非常に責任を感じる。自分を助けるために Huck が姿を現し，それゆえに捕らえられたからばかりではない。あの冬の日，Huck が Pap の足跡を見つけて自分の所にやって来た時，Jim は将来を占って，Huck が吊し首になることを警告していたからだ。その甲斐なく，Huck は捕らえられてしまった。Huck を救うには真犯人を捕まえるしかない。そこで探偵役として Tom が登場し，Jim から Pap 殺害現場の詳細を聞き出すことになる。死体が裸であったこと，さらに Jim たちが手にした品々のことを聞いた Tom は，Pap の服とブーツが現場からなくなっていることに気付く。犯人がそれらを着て逃走したと Tom は推理するが，犯人の居場所までは突き止められない。そこで Jim は Pap のブーツに十字が付いていたことを思い出し，Tom は十字の付いた足

跡を辿ることで犯人を追い詰める。

以上が，Twain が Pap 殺人事件を全面解明することを選んだ場合に，この小説がとることになったはずのおおよその道筋である。

＊＊＊＊＊

ブーツの仕掛けを巡るこの仮説は，*Huck* のテキストだけでなく，後の推理小説 *Tom Sawyer, Detective* を参照することで，より確かなものになる。この小説と *Huck* の接点は，Huck と Tom が Phelps 農場へ旅をするという共通の筋書きだけではない。*Detective* における最大の仕掛けも，踵に細工をされた靴なのである。それは，盗人が人の目を欺いてダイヤモンドを隠すためのトリックとして物語に導入されるが，興味深いことに，やがて殺人事件の謎を解く鍵として使われることになる。

この小説は，Denmark の作家 Steen Steensen Blicher の小説 *The Minister of Veilby*（1829）の筋を借用したと言われている（Gerber xi）。確かに，Twain の描く Dunlap 兄弟と Uncle Silas の確執は Blicher の作品と共通点も多いものの，Twain 自身が剽窃疑惑を否定している通り（Leach），物語の初めから展開されているダイヤを巡る三人の盗人の筋や靴の踵の仕掛けは独自のものである。そこでは，盗人の一人 Jake Dunlap がダイヤを独り占めしようとして件の靴を履いて逃げている。あとの二人は，Jake の足跡（“tracks” [169]）を追う。それ自体に十字のような特別な印は付いていないものの，踵に細工された靴を巡る追跡劇がこうして描かれる。

その後，Jake が変装をするために茂みに入ったところで二人は追いつき，襲い掛かって彼を殺してしまう。ところが，そこに通りがかった Dunlap 兄弟 Jubiter と Brace が躍り込んできたので，悪党たちは何も取らずに逃げていく。Dunlap 兄弟の目の前には Jake の死体が横たわっている。ここで，靴の盗難が起きるのだが，それは直接描かれず，結末の法廷場面において，Tom が事件解明の重要な鍵として，変装と絡めながら次のように説明することになる。

> ［Brace and Jubiter］found where the thief［Jake］had got his disguise out of his carpet-sack to put on; so one of them strips and

> puts on that disguise.... The man that put on that dead man's disguise was—*Jubiter Dunlap*! ... Then they pulled off the dead man's boots and put Jubiter Dunlap's old ragged shoes on the corpse and put the corpse's boots on Jubiter Dunlap. (170)

Jubiter は死体の衣服だけでなく靴も身につけた，と Tom は謎解きをする。さらにこの靴は，我々が想定した Pap の靴の役割と同様に機能する。Jubiter も踵の細工に気付かぬまま歩き回るのである。

靴の踵に関する容疑者の無知について Tom が法廷で誇張気味に指摘する様子は，靴の仕掛けが Twain にとって誇り高いものであったことを示している。後述する通り，Tom は死体が Jubiter の双子 Jake のものだったことを明かしたあと，こう述べている。

> Your honor, it wasn't right to call him [Jubiter] a thief, and I'll let up on that a little. He did steal the di'monds, but he didn't know it. He stole them from his brother Jake when he was laying dead ... but Jubiter didn't know he was stealing them; and he's been swelling around here with them a month; yes, sir, twelve thousand dollars' worth of di'monds on him—all that riches, and going around here every day just like a poor man. Yes, your honor, he's got them on him now. (175)

ここで Tom は，まだ靴の踵の仕掛けの開示を引き延ばしているので，Jubiter は単に自分が金持であることに気付いていない貧者として描かれている。ただ，Tom がそのことを述べる際に，Jubiter が無知なまま動き回っていることを重ねて強調していることは興味深い。つまり，この皮肉な状態は，踵にダイヤがある場合よりも，踵の十字が指紋のような足跡を行く先々で残し続けている場合の方が，劇的効果を持つに違いないからである。

この後，保安官が無為に Jubiter の体を検めた後，ようやく Tom は Jubiter に靴を見せるように言う。

> "Put up your foot on this chair." And he [Tom] kneeled down and begun to unscrew the heel-plate, everybody watching; and when he

> got that big di'mond out of that boot-heel and held it up and let it flash and blaze and squirt sunlight everwhichaway, it just took everybody's breath.（176）

こうして Twain は，死体の履いていた靴の踵が事件の真相を解き明かすという筋立てを，この作品において実現したのである。

加えて，この作品でも殺害現場に「あるはずのものが欠けている」という状況が描かれ，その謎に Tom は挑んでいる。あるとき Tom と Huck は Jake 殺害現場へ行く。その目的は，ダイヤ入りの靴を回収することだったが，前述した通り，それは Jubiter が持ち去っていた。現場からの靴の消失は，Pap 殺害現場における靴の不在と同様の出来事だが，ここでは新たな謎が加えられる。Tom が現場の茂みに入っていくと，死体までもが消えているのである ── "[T] here wasn't a sign of a corpse"（141）。

ここで，Pap 殺害現場における「欠如」という仕掛けは，靴と死体に分裂したようにも見える。だが，この後 Tom は犬を使ってあっさり死体を掘り当てるので，死体の行方の謎はすぐに解消される。それによりむしろ浮上するのは，死体の正体の謎という，再び *Huck* 的な主題（正体を明かされない［Pap の］死体の謎）である。死体は Jubiter の服を着ていたので，Tom も村人たちもその正体を Jake でなく Jubiter だと勘違いしてしまうのだ。

さらに *Huck* との比較の上で興味深いのは，その死体の正体（Jake）を，双子の Jubiter 自身が気付かないでいる，という点である。結末の法廷場面で，Tom は死体が Jake のものだったことを Jubiter に告げている。ここで我々が驚くのは，Jubiter が偶然に自分の双子の死体に巡り会ったという奇遇よりも，むしろ，死体の身元に Jubiter が気付かなかったという筋立ての方であろう。Pap の死体が発見されたとき，Huck もまた死体の正体を知ることがなかったからだ。肉親の死体の正体をつかみ損ねるという点でも，この物語は *Huck* と同じ根の問題を抱えているようだ。だからこそ，この物語で死体の謎を解く決定的な手がかりも，奇妙なことに物語内部ではなく，*Huck* から持ち込まれているように見えるのである。

当初 Twain は，死体が Jubiter ではなく Jake であることを示すはずの一

つの証拠を物語の序盤で準備していた。Jubiter の体には特徴的な印があり，それが彼のあだ名の由来になったというのだ。

> The school teacher seen a round brown mole the size of a dime on his［Jubiter's］left leg above his knee, and four little bits of moles around it, when he was naked, and he said it minded him of Jubiter and his moons; and the children thought it was funny, and so they got to calling him Jubiter, and he's Jubiter yet.（110）

したがって，死体の謎はこの印によって解決されるのが自然な展開だったはずである。だが，Twain は結末の法廷で，全く新しい証拠を導入してしまう。Tom は Uncle Silas を訪ねた一年前（*Huck* で描かれた時期）に Jubiter に会っており，そのときの彼の奇妙な仕草を記憶していた，と言い出す。それによって，彼の変装を見破ったという（同時にそれは死体が Jubiter ではなく Jake だったことを意味する）。それが「十字」なのである。

> ［A］ll of a sudden his［Jubiter's］hands begun to work and fidget, and pretty soon his left crept up and *his finger drawed a cross on his cheek*, and then I *had* him!（174）

この唐突な十字の出現は，この小説における死体の正体の謎が *Huck* におけるそれと地続きであることを示していよう。Pap 殺人事件の決定的な証拠でありながら結局は放棄された十字のトリックが，ここでは靴と切り離されて使用されたように見える。だとすれば，Pap の左の踵の十字という仕掛けは，「踵のダイヤ」と「十字を描く特徴的な左手」に分割されて，再利用されたわけだ。

ここまで見てきた通り，Pap 殺人事件のために用意された筋書きは，*Detective* での出来事を頼りにある程度裏付けられる。と同時に，Pap の事件の方が推理小説として出来の良いことも判明したように思う。Pap の靴の仕掛けは，事件の謎を解く鍵として物語の他の部分と有機的に連関し，過度に偶然に頼ることのない展開を可能にするからである。こうして我々は，なぜ Twain は Pap 殺人事件の解決を断念したのか，という問題に辿りついた。出来が悪い方は書けて，出来が良いと書けないとはどういうことだろうか。

＊＊＊＊＊

もちろんそれは，Twain にとって死体の謎とは，ぼんやり（下手に）なら解けるが，あるいは解けた風は出来るが，明快に解くことは出来ない類いの問題だった，ということであろう。そのことを示す例が他にもあるので，Pap 殺害事件解決の断念は，単独の事象としてではなくより大きな枠組み，すなわち，死体の謎解明に対する Twain の回避的な態度の，おそらく最も重要な事例として位置づけられ，論じられるべきであるように思われる。

そもそも *Detective* において，死体の謎が唐突な十字で稚拙に解かれたのは，抑圧された Pap の十字の回帰であると同時に，それ自体，一つの印の抑圧の結果である。発見された死体を特定する明確な証拠は，Jubiter の名前の由来になった木星状の moles が用意されていたのだった。Twain は自ら書き込んだ伏線を失念してしまったのだろうか。いや，そうではなく，実際に墓を掘り返して死体の印を確かめるという明快な解決方法を Twain は書かないで済ませようとしたのではないだろうか。入念に用意した Pap の十字の使用を断念したときのように。完結したかに見える *Detective* の結末でも，Twain は正面からの死体の正体解明を回避したように見える。

なぜなら，この回避的姿勢は，別の死体の扱いにおいても観察できる Twain 特有のものに違いないからである。*Huck* 28 章では，Huck の旅の道連れである King と Duke という詐欺師が，Wilks 姉妹が相続したばかりの遺産をかすめ取ろうとしている。そこで，この挿話は *Detective* 同様，死体と財宝 ── Peter　Wilks の亡骸と遺産 ── を中心に展開していく。そして Peter の兄弟を装っている詐欺師たちの前に，別の二人組が同じ名乗りを上げ，さらに Peter の体には PBW（Peter のイニシャル）という入れ墨があったはずだ，と言い出したとき，この挿話もまた死体の “mark”（255）を巡るものになっていく。そこで，村人たちは詐欺師たちの正体を暴くため，Peter の亡骸を掘り出して印を確かめることになる。しかし，この挿話でもまた，宝だけが発見され，死体の印は確認されることがない。Peter の棺からは，Huck が詐欺師たちから隠していた遺産が発見され，村人たちの混乱に乗じて Huck たちは逃げ出す。ここで墓掘りの描写は途切れるので，結局，死体

の印を巡る筋は尻切れになるのである。

Detective でも，*Huck* のこの挿話でも，あるいは Pap 殺人事件でも，Twain は，死体のアイデンティティーを開示する印（Jubiter の moles，Peter の initials，Pap の十字）を用意しつつも，それらが謎を最終決着する地点にと物語が到達するのを回避してしまう。Twain はダイヤや遺産などの財宝の謎は躊躇無く解決出来るのだが，死体の謎となると中途で放り投げるのである。あるいは稚拙な解き方で，完全解決を装う。このことは，*Huck* の結末でも観察出来る。Twain はそこで事実を歪曲しながら Pap 殺人事件の解決を装っているのだ。Jim が Huck に死体の正体を告げる場面である。

> “Doan’ you ’member de house dat was float’n down de river en dey wuz a man in dah, kivered up, en I went in en unkivered him en didn’ let you come in?” Well, den, you k’n git yo’ money when wants it; kase dat wuz him.”（362）

ここでも，金の問題の解決はもたらされている。同時に，死体の謎も解決されたかのようにも見える。しかし，それが一つの装いに過ぎないことを，この場面における不自然な操作は物語っている。Jim は，まず死体が“kivered up”されており，それを“unkivered”したのだと述べている。しかし，事実は全く逆だった。現場で Pap の死体を見た Jim は，それが“naked”（61）だと言い，その後の Jim の行動を Huck はこう描写していたのだった：“Jim throwed some old rags over him”（61）。つまり，元々の場面では，Pap の死体は“uncovered”の状態から“covered”へ変化した。しかし物語の結末では，Twain はそれを“covered up”の状態から“uncovered”になったとひっくり返すことで，事件の真相が白日の下に曝されたと強弁しているのだ。ここには，物語の結末に相応しい完結感を醸し出したかったという事情以上に，これまで Twain の死体に対する回避的態度を見てきた我々には，死体の謎に無理矢理蓋をしようとする姿があるように見える。実際，Twain が開示したのは被害者の身元に過ぎず，犯人の正体は明さぬままでもある。

こうして死体の謎の最終解決を繰り返し迂回してしまうこととは，言い換えれば，その中心に Twain のペンは直接到達できない，ということである。

それは，Twain にとっての一つの不可能性だと言っていい。そのことを象徴的に示しているのが，Pap の十字の源とも言える *Tom Sawyer* の McDougal's cave である。*Tom Sawyer* の結末で，Tom たちは Injun Joe の隠していた財宝をその洞窟で掘り当てる。目印は十字だった。やはりここでも，宝の謎は解決可能である。しかし，十字を宿していた洞窟自体は，Twain の真実 ── 彼が抱え込んでいる一つの到達不可能性 ── をくどいほどに物語っている。

> McDougal's cave was but a vast labyrinth of crooked aisles that ran into each other and out again and led nowhere. It was said that one might wander days and nights together through its intricate tangle of rifts and chasms, and never find the end of the cave; and that he might go down, and down, and still down, into the earth, and it was just the same—labyrinth under labyrinth, and no end to any of them. No man "knew" the cave. That was an impossible thing. (137)

しかし，洞窟が象徴している到達不可能性，あるいは不可知性は，迷宮の謎でも宝の謎のことでもない。どちらも Tom は解いてしまうからである。それはやはり，死体の謎でなければならない。事実，この洞窟が，自分の心の中で一つの不気味な死体と結びついていたことを，後に Twain は *Autobiography* (2010) に記している。

> In the book called "Tom Sawyer" I starved him [Injun Joe] entirely to death in the cave.... The cave was an uncanny place, for it contained a corpse—the corpse of a young girl of fourteen. (213-14)

この少女の父親は著名な解剖医 Joseph McDowell だったので (Fischer, "Three Passages" 532)，ここから Twain の実父の解剖事件へと議論を進めることも可能だろう。実際 *Huck* でも，解剖に関わる二つの挿話 ── 解剖死体が描かれる "Jim's Ghost Story" と腐らない死体が登場する "raft episode" ── は，結局は小説から削除された "omission" に他ならないことに，我々も

Sid のように“mental note”をつけるべきだろう[5]。しかし，繰り返せば，ここでの我々の関心は Twain の父に関する伝記的事実よりも，彼のテキストに潜んでいる不可知なものの方にある。ここでは不可知な底なしの洞窟が，*Huck* における一つの「欠如」を生み出した軌跡を辿ることにしたい。

それは Pap のことである。彼は，死体と十字を宿していた洞窟の不可知性を引き継ぐ形で *Huck* に登場している。表面上は，洞窟で発見された宝 ── 息子が手にした大金 ── に吸い寄せられるようにして彼は現れた。しかし，自身が姿を現す前に，彼がまず「死体」として（川岸に漂着した死体を，村人たちは Pap だと勘違いしていた［14］），次に雪の上に残された「十字」の足跡として描かれたことは，彼が洞窟に秘められた二つの謎 ── 死体と十字 ── の後継者であることを暗示している。言わば洞窟が *Huck* に産み落とした Pap は，単にブーツに十字を受け継いだだけでなく，その不可知性をも体現することになったようだ。それ故，Twain は Pap に名前をつけることさえ出来なかったのだろう。Pap は *Huck* 本文中では常に小文字の pap であり，彼の固有名はテキスト上の欠如にとどまった。そして，彼は死後も「名無し」のままだった。彼の死体は，小説最後の頁で身元が（先述した通り抑圧的・回避的に）明かされるまで，正体不明の状態に留め置かれた。ただ一度だけ，Pap の本名が記されそうになる瞬間でさえ，寸前で回避されていたのである。あるとき Pap は，判事に対して禁酒を誓い，誓約書に署名する。しかし，そこに Pap が記したのは，名前ではなく，あの十字だったのだ ──“Then the old man he signed a pledge—made his mark”（27）。

彼のアイデンティティーは，謎の“mark”あるいは十字でしか表せない。彼は文盲という点で自身が書き言葉を持たないだけでなく，彼の存在を名指す言葉さえこの小説にはない。シニフィアンを持たない不可知なもの，あるいはテキスト上の欠如，それが Pap なのである。そしてその不可知性は，Twain が決して解決できなかった幾つかの死体の謎と通底しており，Pap もまた殺され，不気味な死体の解かれ得ない謎として機能するしかなかったのである。テキストが直接補足できない彼は，テキストの表から隠れて幽霊のように彷徨い，Twain のペンに「欠如」として取り憑くことになったのだ。

＊＊＊＊＊

Pap という不可知なものを，あるいは Twain が言葉で直接的に名指せないものを，抱え込む形で *Huck* は創作された。それ故，物語の進展につれてその中心にある「欠如」に彼のペンが近づいて行かねばならなくなったとき，それは数年も動きを止めた。あるいは，宝の発見や事実の歪曲などの回避的な描写によって，Twain は「欠如」が作品を崩壊させないように切り抜けた。

我々はそれを否定的に評価すべきだろうか。いや，そうではない。Jacques Lacan の喩えを借りれば，*Huck* とは一つの “vase” ── “an object made to represent the existence of the emptiness at the center of the real that is called the Thing”（121）── だろう。壺は，中心に何もない空間を取り巻く形で作られるが，その空虚という何物かは，そもそも壺がなければ虚空の認識不能な一点にとどまるだろう。*Huck* もまたそのような「壺」だったので，Twain にとって言言語化できない pap の死の謎という「空虚」を呼び出すことに成功した。謎解明の寸前でペンを放り投げることは，一見，逃避という消極的仕草にも見えるが，実は，そのような迂回的な展開こそが，テキストの地を塗りつぶすかのような創作の努力の果てに出来する現象なのである。ペンが寸止めされることで，やっと「欠如」は幽霊のようにぼんやりと姿を現すのである。それと類比的なものとして，Pap 殺害現場でのブーツの十字 ── 網羅的な描写によって浮き彫りになる「欠如」── も理解出来るだろう。それも言わば「幽霊」であるが故，これまで多くの読者の目を逃れていたのである。

結局，Twain が抱え込んだ「不可能性」は，作品を危機に陥れつつも，作品を作り上げるものでもあったようだ。不可知なもの，空虚なもの，あるいは決して解かれることのない pap の死体の謎が，その周りに壺のようなテキストを作り上げた，と言ってよいだろう。それを Lacan なら神々しい “creation *ex nihilo*（無からの創造）”（115）に数えるだろうが，少なくとも *Huck* がこの世の中にある事物に全てを頼ってなされる創作とは別の水準の創造であったことは，我々にも了解されるはずである。

註

1．Rogers は，あるとき Huck が出会った騎乗の二人組が後に Pap 殺しに関わる，と推測するにとどまっている（131）。
2．Clinch が想像した展開とは，ある黒人殺害事件に関わった Pap が，その遺族に復讐される，というものである（110–11，281–82）。
3．南部行きはそもそも矛盾ではないと竹内は主張している（73）。
4．その目的は未確定だが，Twain の実父が検視あるいは解剖されたことについては，Wecter 116，後藤 82，Fanning 13 を参照。
5．これら二つの挿話が含む解剖の主題については竹内 79 を参照。

引用文献

Blair, Walter. *Mark Twain & Huck Finn*. Berkeley: U of California P, 1960. Print.
Clinch,Jon. *Finn: A Novel*. New York: Random House, 2007. Print.
Blicher, Steen Steensen. *The Minister of Veilby*. Kindle file.
DeVoto, Bernard. *Mark Twain at Work*. Cambridge: Harvard UP, 1942. Print.
Fanning, Philip Ashley. *Mark Twain and Orion Clemens*. Tuscaloosa: U of Alabama P, 2003. Print.
Fischer, Victor and Lin Salamo, with Walter Blair. “Manuscript Facsimiles.” *Adventures of Huckleberry Finn*. By Mark Twain. Berkeley: U of California P, 2003. 560–77. Print.
——. “Three Passages from the Manuscript.” *Adventures of Huckleberry Finn*. 373–451. Print.
Gerber, John C. Foreword. *Tom Sawyer Abroad; and, Tom Sawyer, Detective*. By Mark Twain. Berkeley: U of California P, 1982. xi–xii. Print.
Lacan, Jacques. *The Ethics of Psychoanalysis, 1959–1960*. Trans. Dennis Porter. London: Routledge, 1999. Print.
Leach, Henry G. “Was ‘Tom Sawyer’ Danish or American?” *New York Times* 6 Feb. 1910. *New York Times Article Archive*. Web. 3 Feb. 2013.
Rogers, Franklin R. *Mark Twain’s Burlesque Patterns*. Dallas: Southern Methodist UP, 1960. Print.
Schmidt, Peter. “The ‘Raftsmen’s Passage,’ Huck’s Crisis of Whiteness, and *Huckleberry Finn* in U.S. Literary History.” *Mark Twain’s The Adventures of Huckleberry Finn*. Ed. Harold Bloom. New York: Infobase, 2007: 149–70. Print.

Takeuchi, Yasuhiro. “Twain’s Trauma and the Unresolved Murder of Huckleberry Finn’s Father.” *Literary Imagination* 15.3 (2013): 259–74.

Twain, Mark. *Adventures of Huckleberry Finn*. Ed. Victor Fischer and Lin Salamo. Berkeley: U of California P, 2003. Print.

——. *The Adventures of Tom Sawyer*. Ed. Beverly Lyon Clark. New York: Norton, 2007. Print.

——. *Autobiography of Mark Twain, Volume 1*. Ed. Harriet Elinor Smith. Berkeley: U of California P, 2010. Print.

——. *Pudd’nhead Wilson and Those Extraordinary Twins*. Ed. Sidney E. Berger. New York: Norton, 2005. Print.

——. *Tom Sawyer Abroad; and, Tom Sawyer, Detective*. Ed. John C. Gerber. Berkeley: U of California P, 1982. Print.

Wecter, Dixon. *Sam Clemens of Hannibal*. Boston: Houghton Mifflin, 1952. Print.

亀井俊介『マーク・トウェインの世界』東京：南雲堂. 1995. Print.

後藤和彦『迷走の果てのトム・ソーヤー』東京：松柏社. 2000. Print.

竹内康浩「トウェインのリンゴ：禁止と誘惑」『マーク・トウェイン　研究と批評』12. (2013)：72–82. Print.

The Purloined Boots in *Adventures of Huckleberry Finn* and *Tom Sawyer, Detective*

Yasuhiro TAKEUCHI

More than half a century ago, Franklin Rogers investigated the possibility that *Adventures of Huckleberry Finn* (1885) had been originally designed as a burlesque detective fiction surrounding the murder of Pap Finn. His study, however, has not made significant impact on ensuing readings of the novel in spite of its insight, due to Rogers's failure both to offer textual evidence from the novel and to appreciate the import of Mark Twain's decision to abort this initial plot. This paper, therefore, aims to supply both, and thus foregrounds what Twain inveterately refrains from delving into: the mystery of a corpse. The vantage point of *Tom Sawyer, Detective* (1896), which shares its setting of the Phelps farm with the ending of *Huckleberry Finn*, is central to reconstructing the unfulfilled plot of the latter. The title character Tom solves a murder mystery by identifying the suspect's idiosyncratic behavior—drawing a cross on his cheek with his finger—and also by revealing the secret of the suspect's boots, which the suspect stole from the victim to disguise himself without knowing that diamonds were hidden in the heels. The crucial clue embedded in Pap's murder scene must also be his boots stolen by the murderer, just as the suspect did in *Tom Sawyer, Detective*. Pap's murderer will be captured when Tom, playing the role of detective, stumbles on the tracks with the distinctive cross, which he (or she) unknowingly keeps leaving. Despite his well-wrought foreshadowing and clues, Twain faltered at completing the murder mystery. Twain's

aversion to setting the record straight about a dead body manifests itself again in another episode of *Huckleberry Finn*, in which the body of Peter Wilks is exhumed to have its tattoo examined—another "mark" (if not a singular cross) related to a corpse. When a bag of money is unexpectedly found in his grave, however, Twain suddenly shifts the narrative's focus from the tattoo to the money and stops short of revealing the truth about the corpse. Twain's encircling of Pap's murder mystery with his unidentified body at its center coincides with the symbolic significance of his "cross." Suggestively enough, Pap seems to have "inherited" his cross from the cross in McDougal's cave, which is called, at the ending of *The Adventures of Tom Sawyer* (1876), "an impossible thing" because "No man 'knew' the cave." Pap's cross, initially intended as the clue to solve his murder mystery, itself signifies impossibility, and thus brings Twain's original plot to a halt. Twain's text is thus the product of his struggle with something that always remains unresolved, the inscrutable corpse.